

外国語活動

1 外国語活動の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 指導要領改訂の趣旨及び要点

(1) 中学年の外国語活動導入の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題を踏まえ、小学校中学年から外国語活動を導入し、音声面を中心とした活動を通じて外国語活動に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高める。

(2) 改訂の要点

各学校段階の学びの接続と「外国語を使って何ができるようになるか」の明確化の観点から目標を設定している。

今回の改訂では、小学校中学年に新たに外国語活動を導入し、高学年の外国語科への円滑な接続を図ることを重視している。中学年の外国語活動では、三つの資質・能力の下で、英語の目標として「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの音声面を中心とした領域を設定し、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。また、より弾力的な指導ができるよう、2学年を通した目標となっている。

3 英語の目標及び内容等

(1) 英語の目標（外国語活動の目標を踏まえて設定される）

英語では、英語学習の特質を踏まえ、以下に示す三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標としている。

① 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。

ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

② 話すこと【やり取り】

ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。

イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり答えたりするようにする。

③ 話すこと〔発表〕

- ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。
- ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

(2) 英語の内容

① 英語の特徴等に関する事項〔知識及び技能〕

外国語活動における「知識及び技能」に関わる目標を達成するためには、相手と主体的にコミュニケーションを図ることの大切さを知るとともに、日本と外国の言語や文化について理解することが大切である。そのため「知識及び技能」の内容は、「コミュニケーションに関する事項」と「言語や文化に関する事項」とで構成しており、高学年外国語科で示された言語材料のうち、適切なものを適宜選択して扱って、実際に英語を用いた言語活動を通して体験的にその内容を身に付けることとしている。

② 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項〔思考力、判断力、表現力等〕

中学年の外国語活動において育成すべき「思考力、判断力、表現力等」は、「伝え合う力の素地」であり、高学年の外国語科における「伝え合う力の基礎」につながる資質・能力である。決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切に、以下の二つの事項を身に付けることができるように指導する。

- ア 自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら伝え合うこと。
- イ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。

③ 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、「知識及び技能」に示す「コミュニケーションに関する事項」や「言語や文化に関する事項」を活用して、三つの領域ごとに示された具体的な言語活動を通して指導することや、「言語の働きに関する事項」で示された言語の使用場面や言語の働きを適切に取り上げて指導が行われることが必要である。

4 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成の配慮事項

- ① 第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意する。
- ② 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ③ 学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語活動の目標の実現を図る。
- ④ 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う。また、英語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いながら、友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。
- ⑤ 言語活動で扱う題材は、児童の興味・関心に合ったものとし、他教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をする。
- ⑥ 外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても理解を深めさせる。
- ⑦ 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。

- ⑧ 学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し、授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行う。

(2) 内容の取扱い

- ① 児童の発達段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。
- ② 文字については、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱う。
- ③ ジェスチャーなどを取り上げ、コミュニケーションを支えるものとしての非言語手段の役割を理解させるようにする。
- ④ 個々の児童の特性に応じてペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫する。
- ⑤ 児童の実態や教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、指導の効率化や言語活動の充実を図るようにする。
- ⑥ 言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにする。

5 指導の留意事項

(1) 中学年の外国語活動と高学年の外国語科、中学校外国語科とのつながり

小学校中学年 外国語活動 目標	小学校高学年 外国語科 目標	中学校 外国語科目標
外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションによる見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語教育においては、小学校から高等学校までの指導のつながりが重要視され、それぞれの目標が段階的に設定されている。

(2) 知多地方教育計画案小学校外国語活動の留意点

① 単元の構成

Unit ごとに単元を構成する。各学年の総時間数は3年生35時間、4年生35時間である。

② 単元の見目標

(1)は、知識及び技能、(2)は、思考力、判断力、表現力等、(3)は学びに向かう力、人間性等を表す。

③ 標準的な展開例

各時間の主な学習活動と活動に対しての留意事項などを記載する。単元を構成する上での留意事項がある場合は備考欄に示す。

④ 評価

ア 「留意事項など」には、その時間に、どのような言語活動を通して、どの資質・能力を評価するかを示す。三つの資質・能力のうち、(1)は、「知識・技能」、(2)は、「思考・判断・表現」、(3)は、「主体的に学習に取り組む態度」と表記する。

イ 単元を中心となる活動では、3観点全てを見取ることが望ましいが、実行可能性を考慮し、本計画案では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点について評価することとする。

⑤ その他具体的事項

ア 1時間の基本の流れは、①挨拶・ウォームアップ→②基本表現の練習や基本表現を用いた活動→③振り返り・挨拶とする。なお、挨拶は本文中では省略する。

イ 詳細な学習活動、留意事項及び評価規準は指導案例に記述してあるので、本文と併せて参照するとよい。指導案は、担任又は外国語活動を担当する教師が単独で行うことを想定している。

6 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
思考・判断・表現	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。